

情報連絡員報告を中心とした

県内の中小企業動向

平成23年12月期

情報連絡員50名 回答数50名

全体概要

【前月からの動き】

前月比

- ▶製造業では、売上高において「増加した」業種は3から4に増加。「減少した」業種は3から6に増加。
- ▶非製造業では、売上高において「増加した」業種は7から15に増加。「減少した」業種は14から8に減少。
- ▶業界の景況では、「好転した」業種は0から3に増加。「悪化した」業種は18のまま変化なし。

前年同月比

- ▶製造業では、売上高において「増加した」業種は3のまま変化なし。「減少した」業種は8から9に増加。
- ▶非製造業では、売上高において「増加した」業種は5から7に増加。「減少した」業種は18から14に減少。
- ▶業界の景況では、「好転した」業種は2のまま変化なし。「悪化した」業種は24のまま変化なし。

製造業

しょうゆ製造

【県内全域】

上期は震災の影響が大きく、外食分野が落ち込んだ。下期は若干持ち直したが全般的に低迷状態が続いた。出荷量減少の要因として、醤油加工品のシフトが依然として続いていると思われる。

豆腐製造

【県内全域】

学校、事業所への給食食材の納品に、北関東産大豆を使用している業者がいわゆる放射性物質についての風評被害を受け、原産地発行の証明書で対応した。昨年までとは打って変わり海外産大豆の方が安心という見方があったようだ。

印刷

【県内全域】

県内印刷企業12月の売上高は、大半の企業がマイナスのままです。地方に行くほど比率の高まる官公需は、予算の縮減による点数・部数削減等で益々厳しくなる一方です。民需もごく一部を除き芳しくありません。県内でも大震災・円高・社会保障費負担増などの様々な影響が顕在化し、大手工場の閉鎖、観光産業の需要低迷、一般消費支出の減額等で12月の基調も回復には至りません。

電気鍍金

【千葉】

日銀短観においても、景況は悪化していると発表している通り、大企業より中小企業の景況はこの年末に入ってから一段と悪化している。本組合の11月の景況調査でも、昨年同期比△7%であった。

鉄工業

【千葉】

各社の足元の動向は、若干バラツキも見られるなかで、全体としては横ばい推移が続いている。しかし、欧州危機と円高影響により、大企業製造業の景況感が悪化していることを受けて、裾野を形成する我々中小企業各社にとって、しわ寄せ懸念があることから、設備投資抑制等慎重な気配も伺われる。

機械部品製造

【野田】

内需の駆け込み受注とみられ、年明け不況再来の状況。円高株安、国内生産が益々厳しくなり、先行き不安で設備投資どころではない状況。

機械部品製造

【流山】

円高も続いており景況については、変化はなく、依然厳しい状況。

機械部品製造

【柏】

企業間業界間でのバラつきがあるが、既存取引だけでは先細りは避けられない状況。各社、新規先、既

存先への営業を強化。ただし、期間限定或いは、小ロット等で活性化までには繋がらない。自立につながる活動を更に促進することが重要。平成24年～25年がターニングポイント。タイの大洪水の影響が中小にも現れている。

■採石

【野田】

東京都では23年度の港湾整備に前年度比10%増で対応するというが被災地の残土搬入で期待薄。

■土砂採取

【県内全域】

全体的には、公共事業投資がなく、骨材需要が減少し各企業は事業運営に苦慮している。しかし、ごく一部ではあるが昨年同時期と比べ、多少良くなってきているところが見受けられる。また、ごく一部ではあるが災害復旧の関係で需要が増加傾向になっているところも見受けられる。

非製造業

■総合卸売

【千葉県・東京都】

総じて、売上前期比減少。【PR用品】カレンダー、手帳等の年末品受注は前年比減少。近年同傾向が続いている。【酒類卸】飲食店への販売依然低調。

■食肉卸売

【県内全域】

厳しい状況にある。原発事故に伴う肉用牛損害賠償請求の第1回目の補償金が農家に支払われたことで経営が少し好転している。

■建築材料卸売

【県内全域】

価格、収益とも横這いで小康状態が続いている。千葉県西部・北部地区は民需がやや回復しているがその他の地区は低迷。ばらつきが目立つ。液状化対策など民間家屋の復旧工事があり、数量的には維持しているが先行き不透明。合理化を進めため、輸送力・労働力不足が露呈。

■乾物卸売

【県内全域】

年間最大の需要期だが、前年と比べ低調。12月漁期後半まで厳しい生産状況が続く、前年同期の生産量を大幅に下回っている。千葉県は、約4割減。全国的には5割強の減作である。しかしながら、下物相場を除いては、さほど高騰相場になっていない。

■卸売

【茨原】

景気は相変わらず下向傾向にあり、物品の動向は見られないものの、年末なりの動きは見られた模様。まだまだ厳しい状況が続くでしょう。来年に期待するしかありません。

■電気機器小売

【県内全域】

売上が今月になり上向いて来てい

る。前年比では半分ぐらいで推移している。今更ながら、家電ポイントの影響の大きさに思い知らされる。業界の動きについて、業界全体の販売は縮小が進んでいる。量販の安売りが合戦が熾烈を極めることが予想される。量販同士の戦いに巻き込まれない自店の経営を泥臭く推進するしか無い。

■青果小売

【千葉市】

年末に向けて相場が上がり、売価設定が難しくなった。それに伴い、利益確保が低下してしまった。売上のには近年にない増収。

■中古車仕入・販売

【県内全域】

手控え感の中も年内最後の山場で成約率小幅反発。一部の強い値動きは、構造的な良質車不足が原因。取引は新年に持ち越しか。

■小売

【野田】

年々、売上高は減少しているが、クリスマス抽選会のセール期間中は辛うじて前年比を上回った。

■印鑑小売

【県内全域】

年賀状印刷が年々減少するが、喪中欠札挨拶状の早期割引（9月より）でカバーする。

■小売業・サービス

【柏】

全く暮れの盛り上がりは感じられない、今までは12月は悪いと言っ

ても頭少し出たものなのだが今年も平月と全く変わらない。

■自動車一般整備

【柏】

悪化しつつある。

■建設揚重

【県内全域】

JR千葉駅西口再開発工事、新日鉄君津高炉改修工事等により稼働率は上昇している。一部で不足している地域も出ている。

■害虫防除

【県内全域】

景気回復は益々悪化状態。

■遊覧船

【鴨川】

天候に恵まれて欠航がなかったの、乗船客が30%増加したが、一番客の少ない時期でもあるため収益には大きく寄与しなかった。

■一般廃棄物処理

【千葉】

繁忙期にもかかわらず、前月同様の内容となり、予想外の展開であった。

■ソフトウェア業

【県内全域】

先が見えず、厳しい状況である。

■建設

【県内全域】

当連合会加入組合員の受注額は前月比1700百万の減少となった。前年同月比でも同じ1700百万の減少であった。

■輸出入

【県内全域】

回復基調（前月比を増加）だが、前年同月比は超える状況ではない。